

## 県内企業の生成AIの利用状況について

近年、ChatGPT などの生成 AI が大企業や先進企業を中心に導入されており、今日では中小企業でも業務の効率化や新たな価値創出のために導入や利用が全国的に進んでいる。

当研究所では、全国での普及状況を踏まえ、県内企業における生成 AI の利用状況やその課題等を把握するため、アンケート調査を実施し、その結果をとりまとめたので、以下に報告する。

### 調査結果のポイント

#### ◆生成 AI の利用状況

- 県内企業は、「利用中」が 24%にとどまり、「利用していない」は 50%に上る。
- 「利用中」の業種では、建設業が 32%で最も多く、次いでサービス業等 28%、製造業 24%と続く。ただし、運輸業は「利用中」がなく、一方「未利用」が 88%と非常に多い。

#### ◆生成 AI の利用業務

- 生成 AI を利用している業務（複数回答）では、「文書作成」が 67%で最も多く、次いで「データ分析等」41%、「商品開発等」24%、「IT 対応」23%、「顧客対応等」21%と続く。
- 業種別にみると、「文書作成」は卸・小売業が最も多く、「データ分析等」は建設業が、そして「商品開発等」、「顧客対応等」はサービス業等と、業種ごとに違いがみられた。

#### ◆生成 AI の効果

- 県内企業に生成 AI 利用による効果を複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは「作業時間の短縮」で、90%の企業が評価している。次いで「人手不足の補完」50%、「アイデア創出」42%、「コスト削減」30%などとなっている。

#### ◆生成 AI 活用における課題

- 課題を複数回答で尋ねたところ、「社員のスキル不足」が 52%で最も多い。次いで「情報漏洩対応」と「誤情報対策」が 39%、そして「精度検証」と「費用確保」が 33%などとなった。

#### ◆生成 AI 利活用上の支援策

- 企業が期待する支援策（複数回答）では、「セミナー開催」が 42%で最も多く、次いで「人材の育成研修」34%、「活用事例等の提供」30%などとなった。

### アンケート調査概要

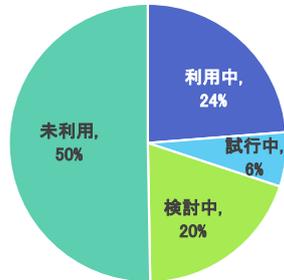
- ① 調査時期：2025年6月3日～2025年6月30日
- ② 調査方法：郵送及びWebによるアンケート方式
- ③ 調査対象：県内に本社または主工場を持つ主要企業421社
- ④ 有効回答率：64%(有効回答数271社)  
注) 本稿の図表中、四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しないことがある。

業種	回答社数	構成比
全業種	271	100%
製造業	111	41%
基礎素材型	39	14%
加工組立型	34	13%
生活関連型	38	14%
非製造業	160	59%
建設業	31	11%
卸売、小売業	43	16%
運輸業	17	6%
サービス業等	69	26%

## 1. 生成 AI の利用状況

県内企業に、現在における生成 AI の利用状況を尋ねたところ、「全社で、または社内部署等で利用している(グラフ表記:利用中)」24%、「試験的に利用している(同:試行中)」6%、「今後の利用を検討している(同:検討中)」20%、「利用していない(同:未利用)」50%の回答となった(グラフ 2-1)。

グラフ 1-1 生成 AI 利用

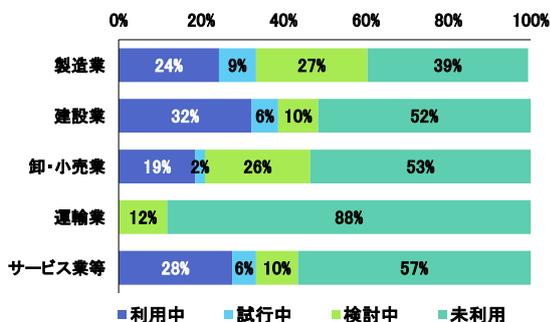


参考までに、総務省「情報通信白書(令和 6 年版)」によれば、全国の企業における生成 AI の使用状況は、「使用中」は 47%に達し、「トライアル中」が 23%、「検討中」17%、「未検討」12%であり、約半数の企業が使用している。

これと比較すると、「利用中」の県内企業は 24%と、全国平均(47%)の約半数にとどまり、また「未利用」が 50%と依然多く、その利用状況は全国水準と比べ未だ途上にあることが明らかとなった。

業種別にみると、「利用中」は「建設業」が 32%で最も多く、次いでサービス業等 28%、製造業 24%などとなっている。「検討中」では、製造業 27%、卸・小売業が 26%となっている(グラフ 1-2)。一方、運輸業は「利用中」「試行中」の企業がなく、「未利用」が 88%と、突出している。このように県内企業の利用状況は、業種によって大きな差が見られる。

グラフ 1-2 (業種別)生成 AI の利用状況

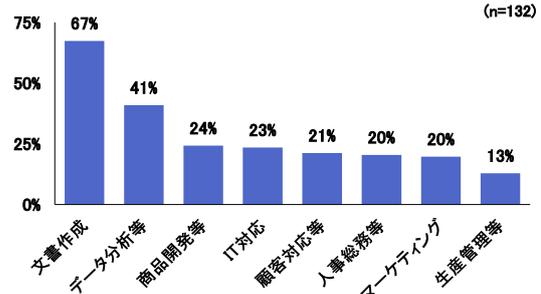


## 2. 生成 AI を利用している業務

生成 AI を利用している業務を複数回答で尋ねたところ、「メール、会議メモ、マニュアルなどの文

書の作成(グラフ表記:文書作成)」が 67%で最も多く(グラフ 2-1)、次いで「データの分析や報告書の作成など(同:データ分析等)」41%、「商品・サービスの企画や開発等(同:商品開発等)」24%、「IT や情報の対応など(同:IT 対応)」23%、「顧客対応、営業推進、及びチャットボットや FAQ など照会対応(同:顧客対応等)」21%などと続く。

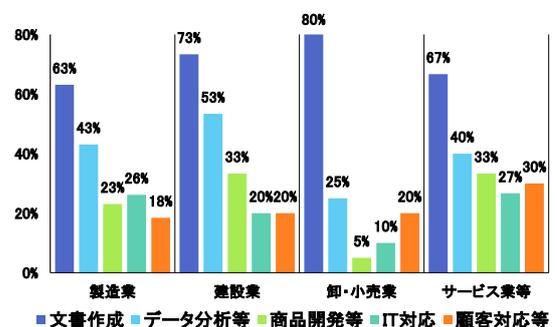
グラフ 2-1 利用している業務



ChatGPT や Copilot など、現在広く普及している生成 AI は、文章を書いたり、まとめたりする機能が充実しており、6 割超の企業でその機能を活用していることがアンケート結果に現れている。一方、「商品開発等」や「顧客対応等」など、企業のビジネス展開や業務推進に役立つ利用は 2 割程度にとどまっている。

業種別では、「文書作成」は卸・小売業が 80%で最も利用しており、「データ分析等」は建設業が 53%で最も多い(グラフ 2-2)。「顧客対応等」はサービス業等が 30%で最も多くなっており、業種ごとに特徴がみられた。

グラフ 2-2 (業種別) 利用している上位業務

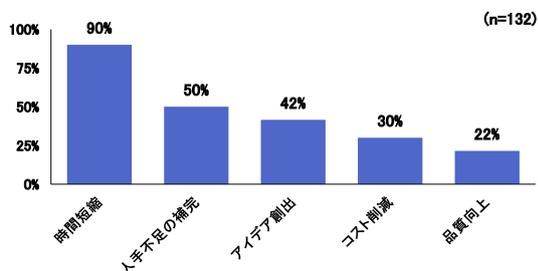


## 3. 生成 AI を利用する効果

生成 AI 利用によって得られた効果または期待する効果を、県内企業に複数回答で尋ねたところ、次の結果が得られた。

最も多かったのは「作業時間の短縮(グラフ表記:時間短縮)」で、90%の企業が効果を評価している。次いで「人手不足の補完」50%、「アイデア創出」42%、「コスト削減」30%、「品質向上」22%と続く

グラフ 3-1 生成 AI 利用による効果



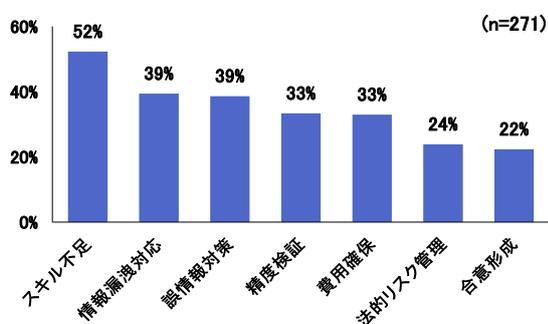
(グラフ 3-1)。

「時間短縮」と回答した企業では、従前の作業に要していた時間が生成 AI の利用で短縮できたとみられる。また、「人手不足の補完」では、生成 AI が人員に代替する機能ありと評価する企業も 50%に上る。「アイデア創出」など企画的な業務でも、42%の企業が効果を認めている。

#### 4. 生成 AI 利用における課題等

業務上利用している生成 AI に対する課題や不安等を、全回答企業 (n=271) に複数回答で尋ねたところ、「生成 AI の使い方や利用方法などで社員のスキル不足(グラフ表記:スキル不足)」が 52%で最多となった(グラフ 4-1)。生成 AI は新しい技術であるため、適切な使い方を理解しないまま活用すると、誤用やトラブルにつながる懸念から、多くの企業で慎重姿勢が強いと考えられる。

グラフ 4-1 利用、導入の課題



次いで「情報漏洩やセキュリティリスクへの対応(同:情報漏洩対応)」及び「誤情報の生成や同利用への対策(同:誤情報対策)」が 39%、そして「精

度や正確性の確認、検証(同:精度検証)」及び「導入・運営・体制整備などの費用の確保(同:費用確保)」が 33%、「著作権など法的リスク管理(同:法務リスク管理)」24%、「社内の合意形成や経営者・社員の理解浸透(同:合意形成)」22%となっている。

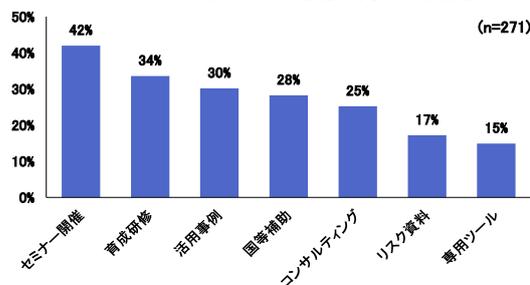
#### 5. 生成 AI 利用・導入における支援策

生成 AI のさらなる利用・導入を進めるにあたり、企業 (n=271) が要望する支援策を複数回答で尋ねた。

最も多かったのは、「操作方法や活用法のセミナー開催(グラフ表記:セミナー開催)」が 42%である(グラフ 5-1)。次いで「人材の育成研修(同:育成研修)」34%、「活用事例や成功事例の提供(同:活用事例)」30%、「国や自治体等の補助金(同:国等補助)」28%、「自社の課題にあわせたコンサルティング(同:コンサルティング)」25%などとなっている。

特に「セミナー開催」、「活用事例」、「コンサルティング」などの情報提供の支援策が多いことから、県内企業は自社における生成 AI の具体的な運用イメージの情報を期待しているようだ。

グラフ 5-1 生成 AI 利用に向けた支援策



#### おわりに

今回調査から、県内企業の生成 AI の利用状況は 24%と、全国平均 (47%) とはまだ開きがあることが明らかとなった。一方、県内企業は人手不足や生産性向上などの経営課題に直面しており、今後、それらへの対応や改善を進めるには、生成 AI の利用がより重要になってくると考えられる。

当研究所では、県内企業の利用動向を今後も注視していく。

以上